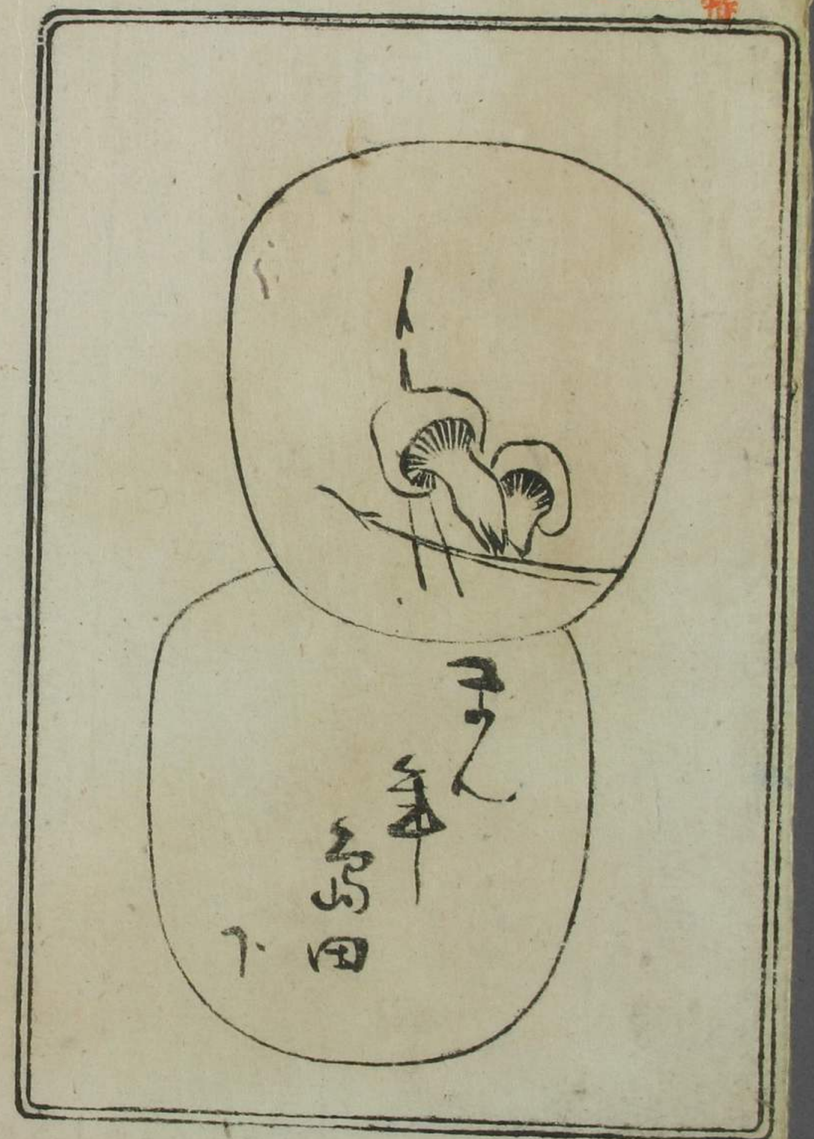
~13
3017
4

四編上
四編下

へ13
3017
4
特



法師ありけど、なほ、おろかなる文章なれど、綴り出さんかなるこゝろ。
襟垢の世を遁れてはゞ頭の霜さへ拂ふよりも、玉の盃をとこゝろと古人の糟を舐廻して只管先哲の聲色を法らひ。
年玉物の策子い編ど只木の箸ゝ竹の箸ゝ楠櫚ゞ〜
ゝと卑しきれて淺草海苔ゝど愛られるせまゝ玩具筥の
片隅ゝ幾秋ゝ古さまして。果ハ鼠の栖とやるゝん。實ハ
冊子作る業たゞかり羨しゝ〜かゝねいからゞと五十年来の
白痴を知りて冗ゝ額を撫る支ゝり

戊辰新春

為永春水記

鶴岡伊勢前
和歌町の
唄女阿百
葉川
ひなの助

浪客
山岸本
茂一郎
孝次

新

仕走
新

得
新

這車よう〳〵く新助が
物語の快をうつせ
音日
酉日

春水作
國貞画

萬吉内
間太郎
養
具
立日

爲永春水作　歌川國貞画

朝鮮牛肉丸　大色金三朱　小色二百疋

牛一ぴきを補ひまん
せんとけふ牛ごいつぺんの
ぶふーのもしあでおりうるあ
ら世ゐあるまでぎふ丸いさ
づらりうるさう丸をもこそ
ちまでいあおをすまるとこ
ろまるふんのおめくれ

版元　紅英堂